

医療マネジメント専修

養成する人材像

今日、保健・医療・福祉機関、並びに関連ビジネスには、これまで以上に、質の高いサービスを効率的に提供することが求められるようになってきました。また、サービスを提供する際には、各個人のニーズを踏まえて、きめ細やかな対応をすることが求められるようになってきました。本専修は、それらを実現するためのマネジメントについて、研究や、企画・実践できる人材を育成することを目的としています。

プログラムの特徴

保健・医療・福祉に関わるマネジメントについては、研究を行う場合には、理論に関する知識だけではなく、実践的な知識が重要となることが少なくありません。また、企画や実践を行う場合には、実践的な知識や技能だけではなく、例えば、国の政策の動向を適切に把握・評価する際など、理論に関する知識が重要となることが少なくありません。このため、本専修では、理論的な知識と実践的な知識・技能の双方を修得できるプログラムを準備しています。

スポーツマネジメント専修

養成する人材像

個人や集団の健康の維持・増進に資する知識とビジネスマネジメント技能を統合することによって、健康水準の高い社会のあり方を企画・実践でき、スポーツ文化の振興とスポーツ産業の発展に貢献できる人材の養成を目指しています。

プログラムの特徴

スポーツを余暇時間での運動に限らず日常生活の身体活動まで含めて広義に捉えたうえで、本専修では、医科学や公衆衛生学、経営学の観点からスポーツの機能・効用を学ぶ教育プログラムを提供しています。例えば、スポーツを強度×時間×頻度×期間に分解することにより、健康維持・増進に不可欠な「適度な運動」についての理解を深めることはできます。スポーツを時間×空間×仲間という3つの「間」として捉えれば、地域社会の問題へのアプローチの糸口が見えてきます。スポーツを消費財に限定せず投資財や公共財と位置づければ、新たなビジネスチャンスの可能性が広がります。意思決定に必要な分析力を磨き、複眼的かつ俯瞰的な思考法を修得することを重視しています。

公衆衛生プログラム

※公衆衛生プログラム入学希望者は、出願時に医療マネジメント専修もしくはスポーツマネジメント専修のいずれかを選択してください。なお、入学後に専修を変更することは可能です。

養成する人材像

公衆衛生はすべての人々の健康の維持・増進と生活の質の向上を目指す実践の学問です。現代社会では、保健・医療・ケアにわたる幅広い領域で、地域から地球規模にまで広がる健康課題の解決を図ることのできる人材が強く求められています。公衆衛生プログラムは、こうしたグローバルな健康課題解決の担い手として、世界の健康長寿社会実現の先導者たらんとする人材の養成を目指しています。

プログラムの特徴

公衆衛生の領域では多様なバックグラウンドをもつ人材が必要とされています。そのため本プログラムは「人材の多様性」を最も重視し、医療者も、医療以外の分野で経験を積んできた入学後も、それぞれが目標に向かって学べる多彩な授業科目を整えています。また近年は、国際機関や政府、自治体に加え、民間財団や民間企業あるいは住民・市民といった「民」が迅速な課題解決に大きな力を発揮しつつあります。こうした新しい視点も重視しています。このような特徴のもと、公衆衛生の両輪である実践と研究のいずれの分野でも活躍できるイノベーター型人材を育てるため、分析力と実践力を磨き、公衆衛生の専門家として必要となる知識・技能とともに、多様な価値観や倫理観が行き交う現場で課題解決力を発揮するためのマネジメント力を身につけることができる教育プログラムを提供しています。

■ 導入科目

健康マネジメント概論	社会保障論	ヘルスケア倫理学	高齢社会デザイン論
臨床入門	経営戦略論		

■ 分析手法科目

リテラシー系	生物統計学・疫学系	データサイエンス系	質的研究系
基礎疫学	基礎生物統計Ⅱ	クオリティマネジメント	質的研究法
基礎生物統計Ⅰ	応用生物統計学	サービスデータサイエンス	
社会調査法	疫学研究の統計的方法	多変量因果解析	
	ヘルス情報管理論		
	臨床試験方法論		

■ 専門科目

医療マネジメント専修	スポーツマネジメント専修	公衆衛生プログラム
医療政策・管理学	健康行動科学	公衆衛生マネジメント
医療経営戦略論	ヘルスプロモーション	感染症疫学・サーベイランス
ヘルスサービス経営倫理学	健康運動科学	地域保健学
ヘルスサービス財務管理論	健康栄養科学	国際保健学
パーソナルケアシステム論	老年医学・老年学	環境・産業保健学
医事法学	健康スポーツ経営論	生活習慣病疫学
リスクマネジメント論	健康スポーツマーケティング論	精神保健学
医療経済学Ⅰ		ヘルスコミュニケーション
医療経済学Ⅱ		
ヘルスビジネス知的財産論		
医薬経済学		

■ インターンシップ関連科目

病院経営論	バイオメカニクス・動作解析	公衆衛生実践
民間保険経営論	運動・体力評価法	健康ビジネス開発論
居宅サービス経営論	健康スポーツ地域デザイン論	
製薬産業論	健康スポーツ産業論	
医療機能評価論		
健康都市デザイン論		

■ 特別研究科目

特別研究

修了要件

2年以上在学し(休学期間を除く)、所定の授業科目を30単位以上を修得し、修士論文または課題研究論文(インターンシップ)の審査および最終試験に合格すること。

■ 早期修了制度

公衆衛生プログラムでは、保健・医療・福祉の分野で一定の専門性と実務経験を有し、より高い専門性の獲得を目指す者を対象に、大学院の早期修了制度を用いて修士(公衆衛生学)を在学1年で取得することができる制度を用意します。

インターンシップ

医療マネジメント専修とスポーツマネジメント専修(公衆衛生プログラム含む)は、学生に対してインターンシップの実施を推奨しています。健康マネジメントの諸領域において実務家あるいは研究者として先導的役割を果たすためには、実践と科学を融合し、複雑な課題に対して創造的な解決策を導き出せる能力の修得が不可欠であることから、インターンシップを教育の柱のひとつと位置づけています。修士論文ではなく「課題研究論文(インターンシップ)」による学位審査を選択する学生は、インターンシップ関連科目の履修、インターンシップへの参加、「特別研究」の履修による「課題研究論文(インターンシップ)」の作成、という一連の流れにより学習・研究を進めます。インターンシップは、2年次に履修する「特別研究」の一部として設定されています。なお、看護学専修のカリキュラムには、インターンシップはありません。

● 主な派遣先

医療マネジメント専修

[2016年度] 国立病院機構 東京医療センター／大成建設株式会社／日本医療機能評価機構／日本医療データセンター
[2015年度以前] 青梅慶友病院／河北総合病院／慶應義塾大学病院／湘南中央病院／竹田総合病院／株式会社ソラスト(旧・日本医療事務センター)／テルモ株式会社／ニチイ学館／日本生命保険相互会社／Meiji Seikaファルマ株式会社／国立病院機構本部／日本看護協会／ダイヤ高齢社会研究財団

スポーツマネジメント専修

慶應義塾大学スポーツ医学研究センター／藤沢市保健医療センター／横浜市体育協会／世田谷区スポーツ振興財団／川崎市多摩スポーツセンター／Jリーグ・アカデミー／ロアッソ熊本／東京ヴェルディバレーボールチーム／名古屋フラーテル／フウガドールすみだ

修了生の進路

本研究科修了後の主な進路としては、看護・保健・医療・福祉・公衆衛生に関連する企業や施設、機関などへの就職と、研究者を志望しての後期博士課程への進学があります。たとえば、金融機関実務経験者の医療機関への就職や、新しい領域における起業など、それまでの経験と、本研究科で修得した基礎的・総合的な健康マネジメントに関する知識を融合させ、出身学部や前職からは従来想定されていなかった分野に進む新たなキャリアの創造が可能になるのも、本研究科の特色です。

看護学専修

● 大学教員 ● 病院(看護師) ● 病院(助産師) ● 自治体(保健師)

医療マネジメント専修

● 金融系シンクタンク ● 医療系研究機関 ● 医療経営コンサルティング会社 ● 情報・ネットワークサービス会社
● 生命保険会社 ● 製薬会社 ● 食品メーカー ● 新聞社 ● 証券会社 ● 病院団体 ● 県教職員(特別支援学校教員)
● 高齢者ケア施設経営 ● 薬局(薬剤師) ● 医科大学(事務部門) ● 病院(医療安全管理部門・事務部門)
● 病院(医師・看護師・ソーシャルワーカー・理学療法士等)

スポーツマネジメント専修

● 大学教員 ● 中学校教員 ● 小学校教員 ● 地方公共団体職員(行政職、保健師) ● 銀行 ● 生命保険会社
● 総合商社 ● 広告会社 ● 経営コンサルティング会社 ● ITサービス会社 ● 人材サービス会社 ● 新聞社
● スポーツ用品流通販売会社 ● スポーツ統括団体 ● フィットネスクラブ(事務職、理学療法士)

後期博士課程

養成する人材像

修士課程においては、健康や疾病に関わる専門知識や技術を単に修得するだけでなく、「社会との関わりを基盤として看護・保健・医療・福祉のあり方を構想する広い視野・鋭い洞察力・高い実践力」そして「疾病から健康にいたる科学的知識に基づく高度なマネジメント能力」を併せ持った研究者、実務家の養成を目標としています。このような人材養成の目標を基盤として、各専修それぞれに次のような個別目標を掲げています。

看護学専修では、看護ケアの新しいあり方を開発・構築・実践できる人材として、深遠な知識と卓越した技術、柔軟な発想をもった実践家と、学際的で豊かな知識と高い倫理性に裏打ちされ、既存の枠組みにこだわらない構想力をもった教育者・研究者の養成を目指しています。

医療マネジメント専修では、保健・医療・福祉システムの基本構造と、それぞれに裁量権を持った専門職が入り混じる現場の複雑性を理解したうえで、保健・医療・福祉サービス提供者に求められる、質の高いサービスの効率的な提供と個人のニーズに即したきめ細かなサービスの調整・統合を共に実現できる人材の養成を目指しています。

スポーツマネジメント専修では、個人や集団の健康の維持・向上に資する知識と健康・スポーツビジネスのマネジメント技能を統合することによって、健康水準の高い社会のあり方を企画・実践でき、スポーツ文化の振興とスポーツ産業の発展に貢献できる人材の養成を目指しています。

医療マネジメント専修とスポーツマネジメント専修にまたがる公衆衛生プログラムでは、公衆衛生領域において新しい科学的知見の創出から政策、マネジメント、コミュニケーションに至る最先端の研究活動と社会活動を行う、科学と実践に立脚した実学たる公衆衛生分野を先導し、すべての人々の健康の維持・増進とQOL向上を図ることができる人材の養成を目指しています。

後期博士課程においては、修士課程で培った素養に加え、高度化・複雑化が加速的に進行している看護・保健・医療・福祉・公衆衛生の領域において、迅速かつ適切に課題を見出す分析能力や、多様な背景や専門能力を持つ研究者や実務家などを統合して効果的かつ効率的に解決に導く統率力を有する、先導的役割を果たす研究者、教育者、実務家の養成を目指します。

カリキュラム構成

学生が3年間の履修を修了すると同時に博士の学位を取得することが原則的に可能なように、研究指導、論文指導が行われます。学位授与に至る各段階に応じた指導と、複数の教員での諸科学横断的なアプローチによる研究指導を確実かつ適切に受けるために、個別の研究指導の時間だけでなく、基礎的理論と実証的研究の方法論・分析手法を確認する特論科目(1年次)と、履修者および学内外の研究者、実務家による研究報告と討議を中心に行う合同演習科目(1～3年次)が設置されています。なお、他研究科修士課程修了者や、本研究科修士課程修了後しばらくの期間実務に就いていて最新の理論や分析手法等に精通していない者は、指導教員の指示に従い修士課程設置科目を履修することで知識を補完することができます。

修了要件

後期博士課程に3年以上在学(休学期間を除く)し、所定単位(特論科目4単位、合同演習科目6単位以上の計10単位以上)を修得し、かつ研究上必要な指導を受けたうえで博士論文の審査および最終試験に合格すること。

奨学金・研究助成

奨学金

研究の意欲を持ち、経済的な理由により修学が困難で、かつ成績・人物ともに優秀な学生を対象に、次のような奨学制度を設けています。

種 類	対 象	種 別	支 給 金 額
■学内			
慶應義塾大学大学院奨学金	修士/博士	給付	(修士)年間60万円 (博士)年間50万円
慶應義塾大学経済支援給費奨学金	修士/博士	給付	授業料の範囲内の金額
健康マネジメント研究科 桜井祐二助産学研究奨励金	修士/博士	給付	年間最大20万円 ※助産学研究の奨学金
研究のすゝめ奨学金	修士2年	給付	年間30万円/50万円/70万円のいずれか
総合医学教育奨励基金奨学金	修士2年	給付	年間最大30万円
慶應義塾大学院 若手研究者研究奨励奨学金	博士	給付	年間30万円/50万円/70万円のいずれか
各種指定寄付奨学金	修士/博士	給付	年間10万円～学費の範囲内

■学外

日本学生支援機構	修士/博士	貸与	第一種(無利子) (修士)月額5万円/8.8万円のいずれか (博士)月額8万円/12.2万円のいずれか ※第一種のみ返還免除制度あり 第二種(有利子) 月額5万円/8万円/10万円/13万円/15万円のいずれか
民間団体・地方公共団体の各種奨学金	修士/博士	給付/貸与	奨学団体の規定による

研究助成

種 類	対 象	補 助 金 額
湘南藤沢学会 研究助成基金	修士/博士	一件あたり30万円以内 詳細 http://gakkai.sfc.keio.ac.jp/foundation/index.html
SFC研究所 各種研究助成金	修士/博士	助成金による

入学試験

入学試験

募集人員：修士課程40名(I期・II期・III期合計)、後期博士課程10名

	I期	II期	III期
募集対象	修士課程	修士課程・後期博士課程	修士課程
出願期間	2016年6月8日(水)～6月14日(火)	2016年10月26日(水)～11月1日(火)	2017年1月6日(金)～1月11日(水)
試験日	2016年7月9日(土)	修士課程 2016年11月26日(土) 後期博士課程 2016年11月26日(土)・27日(日)	2017年1月28日(土)
合格発表日	2016年7月14日(木) 午前10時	2016年12月1日(木) 午前10時	2017年2月2日(木) 午前10時
入学手続期間	2016年12月8日(木)～12月14日(水)	2016年12月8日(木)～12月14日(水)	2017年2月9日(木)～2月15日(水)

出願資格等、試験の詳細については必ず募集要項でご確認願います。募集要項は、研究科ウェブサイト(<http://gsh.m.sfc.keio.ac.jp/>)で公開しています。

入学に必要な費用 (参考:2016年度)

(単位:円)

	学費	学会資料購読料	学生健康保険互助組合費	合計
修士課程	1,630,000	8,000	2,600	1,640,600
後期博士課程	710,000	8,000	2,600	720,600

2017年度健康マネジメント研究科説明会

事前の予約・連絡等は一切不要です。

- 第1回**
- 日時：5月13日(金) 18:30～20:30
 - 場所：三田キャンパス・北館ホール

- 第4回**
- 日時：10月7日(金) 18:30～20:30
 - 場所：三田キャンパス・北館ホール

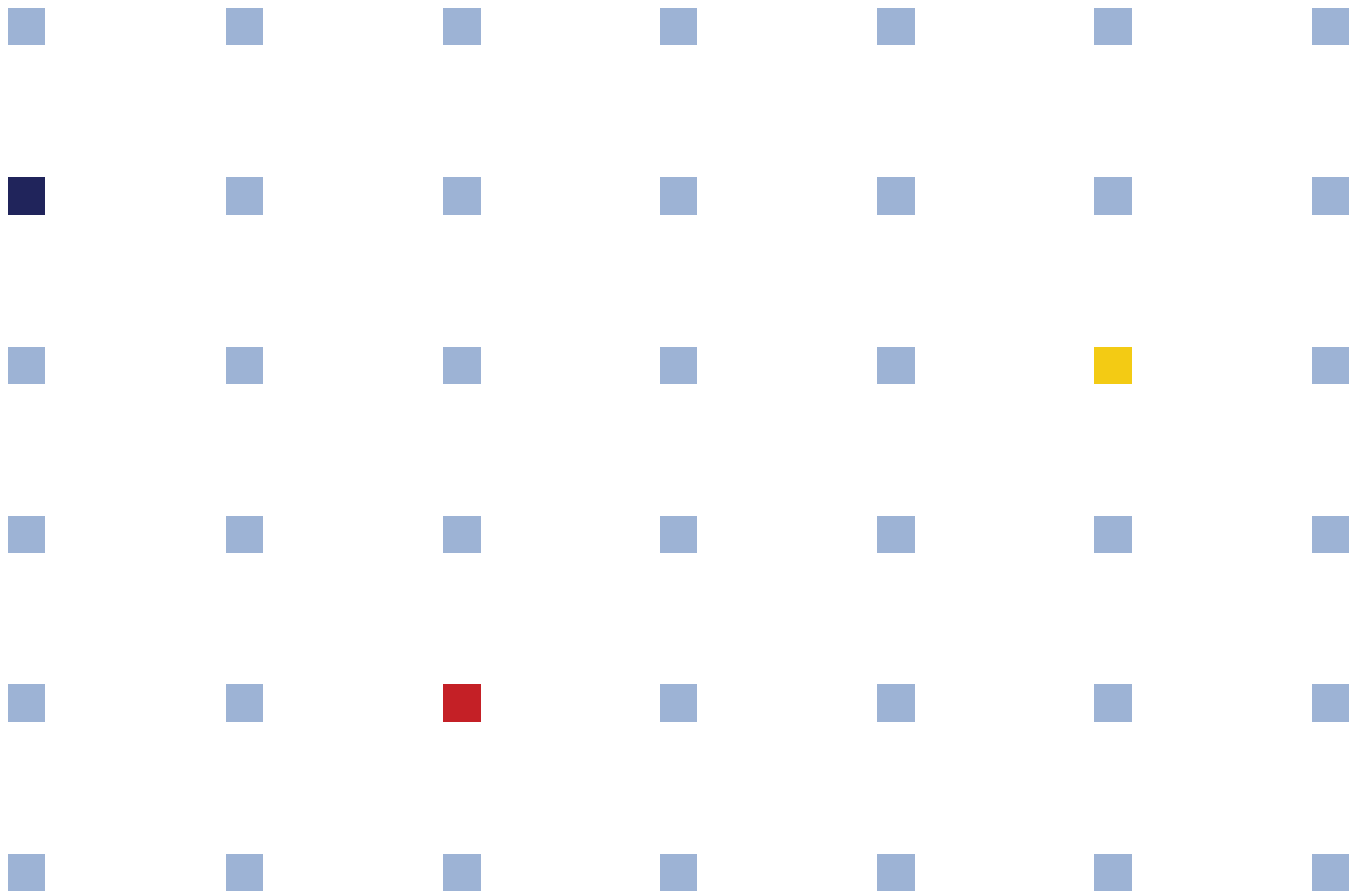
- 第2回**
- 日時：6月4日(土) 17:00～19:00
 - 場所：三田キャンパス・南校舎411


- 第5回**
- 日時：10月22日(土) 17:00～19:00
 - 場所：三田キャンパス・北館ホール

- 第3回**
- 日時：8月19日(金) 18:30～20:30
 - 場所：信濃町キャンパス・孝養舎202教室

〈内容〉 ※1回～5回まで同内容ですが参加教員が異なる場合があります。

- 研究科の教育・研究内容・入試について
- 各専修、プログラム概要説明
- 質疑応答
- 個別相談(教員・在学生)



 慶應義塾大学
大学院健康マネジメント研究科

〒252-0883 神奈川県藤沢市遠藤4411 Tel. 0466-49-6265
<http://gshm.sfc.keio.ac.jp/>